

平成20年度 第3回鳥取市政懇話会

「市民との協働と市民サービスの向上」部会会議要旨

日 時：平成20年11月25日（月）13：30～14：15

場 所：鳥取市役所6階 議会会議室

出席者：田中仁成委員、池原良行委員、佐々木ターミー委員、仲山一成委員、森本幸子委員、坂本環境下水道部長
（事務局）鹿田企画調整課長補佐、岸田

1 開会（事務局）

これまでにいただいたご意見をまとめている。追加の意見、抜けているもの等あればいただきたい。

2 議事

○委員 吉成の町内会で、一人暮らしのお年寄りをどう支援していくかという話がでた。また、昼間に災害が起きても若い者がいない、という意見もあった。鳥取市内でも地域ごとで、活動に温度差がある。

○鹿田課長補佐 最近は近所づきあいが少なくなり、隣に住む人を知らないことも多い。以前は、地区で名簿を作成し、どこに誰が住んでいるか把握することができたが、個人情報取扱が難しくなり、地区内の住民の把握ができない。助けてほしいという声を挙げていただける方がいいが、そうでない方で助けを必要とする方の把握が困難。

○部会長 一人暮らしかどうかさえ把握できないことが多い。地域で助け合っていくというのが難しい問題になっている。

○委員 民生委員が知っていると思うが、民生委員も情報をだすことができないと言う。

○委員 個人情報保護法というのは、個人を守っているようで守っていない感がある。活かしきれていない。鹿野の場合は、集落が小さいため、地域の状況をよく把握できている。

○委員長 コミュニティがしっかりしているところはよい。新興住宅地やアパートが多いところのように、人の出入りが多いと悩ましい部分がある。最近は、アパートに高齢のご夫婦が暮らしていらっしゃることもある。なるべくコミュニケーションをとるようにしている。

○委員 地域の自治会に所属していればよいが、面倒くさいと言って所属しない人もいる。

○部会長 子どもができて、子ども会に加入して初めて接点ができるということもある。

○部会長 広聴業務については、意見を求めていますという待ちの姿勢ではなく、市の人々がサークルの会合など外に出て意見をきくなど、外との交流を持ちながら積極的にヒアリングをしに行くという姿勢が必要。外部、民間の方と交流をするという意識を持っていただきたい。

- 委員 防災活動について、市全体を想定した防災訓練をしていただきたい。また、市の施設に対して、祝祭日には国旗を掲げるよう市長名、部長名で通知が出ているにもかかわらず、11月3日、23日、ともにほとんどの施設で国旗の掲揚はなかった。市長、部長の指示が出先の機関に伝わっていないのではないか。
- 委員 自分の国を誇りに思う気持ちが大事。日本人としてのプライドを持って生きるという教育の問題。
- 委員 一般家庭に対しても、国旗掲揚のお願いはできるのではないか。強制するのではなく、協力をお願いするだけならよいのではないか。
- 部会長 その他の項目で報告をしたいと思う。市内部での指示を徹底されるように努力をお願いしたいということで報告したい。
- 委員 防犯のことについても報告したい。青パトを走らせてはどうか。
- 鹿田企画調整課長補佐 河原町で取組みがなされている。そういった車を購入し、許可を得て、定期的に地域を回っていただいている。犯罪の抑止力はあると思う。
- 委員 お年寄りの方が登下校の子どもさんたちの安全を見ているが、逆にお年寄りの方が危ないと思うことがある。
- 部会長 本当は、PTAなどの若い世代も参加しないといけないと思うが、仕事をしているとなかなか難しい。仕事を休んで行くのも限界がある。元気なお年寄りも多い。地域に出て、何らかの活動に参加する姿が、コミュニティがしっかりしていることの表れになり、犯罪の防止につながることもある。
- 委員 地域の目があるということが犯罪を防止する。鹿野でも多くの方に参加していただいている。大変ありがたい。
- 委員 振り返ってみると、市が市民サービスの向上に努めている一方で、市民のほうに余計なお世話だと思っている風潮があるのではないかなと思う。市民を自立させる方向にもっていくことを考えるのも面白いかなと思う。
- 委員 鹿野の場合、市町村合併前は行政に頼りきっていた。待っていればサービスを受けられ、それが当たり前になっているところがあった。合併してからは、予算がないということもあり、自立しないといけないという意識が生まれた。合併から3年もたつと、自分たちから市にやりたいことを言っていこうというふうにかわった。
- 委員 新市域は地域の団結が強い。鳥取市域は、地域内の実情が様々。
- 委員 広い市域を1つにまとめるのは難しいし、すべての地域が同じことをする必要はない。地域の特徴を生かしていくことが大事。公民館単位でもいいから、地域ごとに考えていけばよいのではないか。
- 委員 旧市域の中には、干渉されることを嫌がる人が多い。
- 委員 そういった方々に働きかけることは必要だが、無理強いすることはない。
- 委員 隣保というものをつくってもらいたい。
- 坂本環境下水道部長 市は協働のまちづくりに取り組んでいる。地域の問題は自分たち

で解決するという方向で考えていただき、行政がそれをお手伝いするというもの。これからのまちづくりの考え方。

○委員 ゴミ問題はまさに解決された。住民がきちんと分別をするようになった。

○部会長 協働、連携が進んでいる地域もあれば、全く進まない地域もある。住民の意識が違えば、取り組みも違ってくる。それもやむを得ない。先進的な地域の事例を紹介してもらって、それぞれのまちづくりに役立てていけばよいのではないか。

○委員 鹿野にもまちづくり協議会はある。新しくできたところもあれば、必要ないところもある。いろいろな取り組みを見てお互いに学ぶことが大事。

○委員 一番の問題は、災害が起きたときに誰がリーダーになるかということ。

○委員 地域の消防団がよいのではないか。ただ、男性がほとんどで、仕事にでてしまって日中はいないことが多い。

○鹿田企画調整課長補佐 全市域で女性消防団員を募集し、女性消防団を結成したところ。

○委員 放水作業をしてみたことがあるが、かなり重い。事前に練習しておかないと、実際の火事などでは対応できない。

○鹿田企画調整課長補佐 消防団は初期消火が大事な仕事。消防署から遠方の場合の消防車が駆けつけるまでの対応が重要。

○坂本環境下水道部長 市内でも、一斉清掃など、住民が集まりやすいときに自主防災会で訓練をしている地域が多い。自主防災活動への助成金もある。

○委員 次の市政懇話会はどうなるのか。意見を聞く場も必要だが、出た意見を形にしていくことが必要。意欲のある方なら会議の回数が多くても参加すると思う。

○鹿田企画調整課長補佐 来年度から次の総合計画の準備にかかるので、そういったテーマを設定してみなさまのご意見を伺う場を設けたいと思う。現在の総合計画策定の際には、市民ワーキングを設け、市民の方々に参加していただいた。そういった市民参加の要素を含めたかたちでやっていきたいと思うので、ご協力をお願いしたい。